

# 平成 15 年度報告 八木三木男

## 中国経済の発展と外国企業の役割

### 1) 中国への外国企業の進出の新たな局面

平成 15 年度も引き続き、中国への外国企業の進出は活発であった。新しい側面として、第一に、中国経済の成長とともに、外国企業もこれまでの輸出のために生産基地としてだけでなく、中国の国内市場への関心を高まった。これは、貧富の格差の拡大という深刻な問題をはらみつつも、中国の生活水準が向上し、国内市場が拡大しつつあることによる。また、新しい富裕階層も出現している。このような中国国内の需要拡大が外国企業にとって重要な進出要因となってきた。自家用車や携帯電話の普及はその典型である。第二に、中国国内における市場経済化の進展によって、内外企業間の競争がはげしくなっている。日本企業の進出形態も多様化するとともに、企業進出には周到な準備とすぐれた経営戦略が求められるようになってきた。

また、従来から危惧されてきた日本の製造業の空洞化はますます深刻になりつつあるが、同時にマイクロレベルあるいはマクロレベルで日本経済の強みを発見する努力が、結果として追及され始めた。すなわち、長期的にみて、東アジアあるいは東南アジアにおける中国と日本の経済的競争がどうあるべきかという問題が明確に意識され始めた。その結果、日本経済の競争力強化への方策が本格的に模索されはじめた。

### 2) 中国政府の外資政策の将来

中国の WTO 加盟により、市場化、国際化への歩みを始めた中国には、社会主義的な統制経済への後戻りはない。経済体制の変革にともなう社会的混乱を避けつつ、いかにして軟着陸を実現するかということが中長期的な課題である。識者の見解も分かれているようである。

同時に、外国企業を活用するという産業政策も市場化によって変質せざるを得ない。統制経済の強く残っている経済制度のもとで、沿岸部や特定の地域の発展を加速する政策によって高度成長を達成したが、いろいろな意味で不均整な発展がもたらされた。今後はその調整政策が求められる。その際、経済特区あるいは地方政府による外資優遇政策も見直しが迫られるであろう。外国企業を誘致するための免税措置とか社会サービスの便宜などは、今後は公共的なプラスマイナスを考慮したものとなる必要があり、そのためには、中央政府と地方政府さらに郷鎮などの下部政府機関との間に、政治体制の変革にも及ぶかもしれない。

不均整成長から均整成長へのダイナミックな成長路線の変革において、外国企業の役割に関する期待がどのように変化するかということに注目したい。

### 3) 中国進出を行っている投資国も多様になっている。香港・台湾などの華人地域や韓国、さらに欧米企業も本格的に進出している。グローバルな競争は中国の国内市場におよんでいる。それぞれの企業あるいは投資国によって、競争力のある分野や競争戦略が異なる。その相違点を明らかにする

台湾の大陸への進出については、政治的問題いわゆる「三通問題」があるが、現実には企業進出の趨勢は衰えていない。政治と経済との関係に注目する必要がある。欧米企業と日本企業との進出スタイルの比較研究を進める。

### 3) 中国をめぐる国際金融の課題

中国元の切り上げを求める世界の世論が強まっている。外国投資規制の緩和によって中国経済が国際金融市場に統合される時期はきている。金融上の「新興市場」として登場した場合、世界経済へのインパクトは計り知れない。すでに、中国の外貨準備高はきわめて高い水準にある。単なる為替相場の調整にとどまらず、世界的な金融資本市場への参加が求められている。

国際金融市場における金融取引の実態を数量的に正しく把握する必要がある。

### 4) 台湾への視察予定

3月下旬、台湾企業の対大陸進出の実態、政治的配慮による影響を調査するため、台湾を訪問する。

### 6) 今後の研究計画

(1) 中国の一層の市場化の進展によって、中国経済の発展における産業政策の行方、外国企業の役割の変化を観察する。

(2) 中国で活躍する日本企業と比較して、欧米企業の経営戦略の特徴を考察する。

(3) 国際金融市場との関連において、資本取引の実態および中国元の為替相場の動向に注目する。